

第6回秦野市にぎわい創造検討懇話会（秦野駅）

令和6年1月26日

水無川沿いの活用に向けた社会実験の目的・実施方針

社会実験の目的

ビジョンの重要なキーワード「水辺や景観を楽しめる街」「人中心の街」を
実現するために必要な『居場所の在り方』と『環境の在り方』を検証する

社会実験の実施方針

- ① 水辺（近景）・街並み（中景）・山並み（遠景）を楽しめる視点場・活動点を設定する
- ② それら視点場・活動点の滞在快適性・居心地を良くする「空間」と「コンテンツ」を設定する
- ③ 視点場・活動点を安全安心かつ快適に巡るための回遊環境・アクセス環境を設定する

【実施方針①】

プレイスマネジメントに取り組む
（居心地・居場所の在り方の検証）
場の設えとアクティビティの多様性

【社会実験要素】

- 視点場にふさわしい居場所の設定
- 滞在快適性を高める休憩施設や眺望空間の設え
- 滞在時間を高める相乗的コンテンツ（マルシェやWS・イベントなど）の導入

効果検証／アンケート、滞在時間、アクティビティ数 等

【実施方針②】

アクセスマネジメントに取り組む
（巡りやすさなどの環境の在り方の検証）
歩車分離・歩車共存など人の移動環境の快適性

【社会実験要素】

- 視点場や水辺へのアクセスルートの確保
- アクセスを円滑に促す情報発信（サイン等）
- 自動車・通過交通の流入抑制（通行制限）

効果検証／交通渋滞調査 等

2つのマネジ
メントを相互に
連動させなが
ら社会実験を
実施

※各実施方針に基づいた社会実験要素は、検証結果を踏まえ継続的・段階的に内容をアップデートさせ、恒常的な空間・環境につなげます。

水無川沿いの活用に向けた社会実験 実施概要

目的	ビジョンの重要なキーワード「水辺や景観を楽しめる街」「人中心の街」を実現するために必要な『居場所の在り方』と『環境の在り方』を検証する。
実施日	2023年11月18日(土)・19日(日)
時間	11:00～15:00 ※交通規制は9:00～16:00
場所	市道6号線・水無川（秦野橋～まほろば大橋間）
実施項目	■ 空間創出＋イベントの実施 ➢ 当該箇所の車両通行止め ➢ 車両通行止めサイン設置 ➢ 川への階段を知らせる路面サイン ➢ 椅子テーブル・パラソル ➢ 階段テーブルの設置 ➢ 欄干テーブルの設置 ➢ 店先空間や道路空間でのコンテンツ展開（出店者数 19店舗） ■ 当該箇所を通行止めすることでの周辺への交通の影響調査 ➢ 周辺交差点での目視調査（※交通量調査実施概要参照）

来場者数 約2,800人

(18日(土) : 1,200人、19日(日) : 1,600人)

2

水無川沿いの活用に向けた社会実験 実施概要



オープニングトーク・ストリートステージ



4

フォトウォーク



5

ストリートマーケット



6

水無川リバースタンド



7

水無川リバーサイドテーブル



8

河川敷アウトドアリビング



9

秦野駅北口周辺まちづくりビジョンパネル展示



10

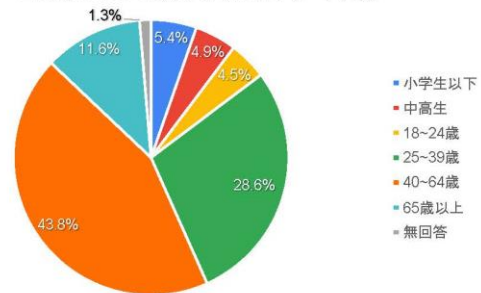
水無川沿いの活用に向けた社会実験 来場者アンケート結果

アンケート回答状況

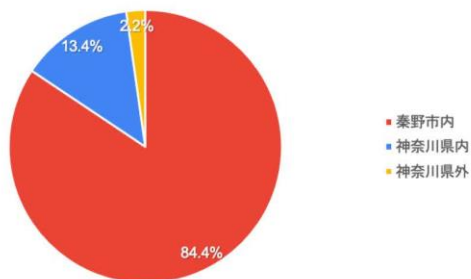
	フォーム入力	紙回答	計
11/18日(土)	61	4	65
11/19日(日)	97	62	159
回答数合計	158	66	224

- ✓ アンケートにご回答いただいた方の約4割が40～64歳、約3割が25～39歳であった。
- ✓ 8割以上が市内（特に本町、南地区）からの来場であった。
- ✓ 同行者は約7割が家族と、約2割が友達・パートナーとなっている。

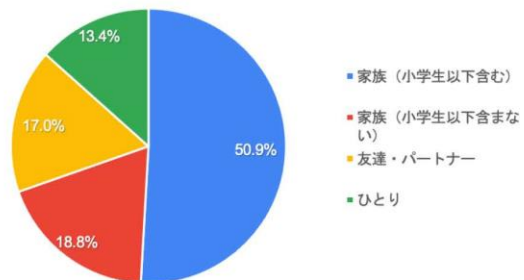
ご自身について教えてください。（年齢）



どちらから来ましたか？



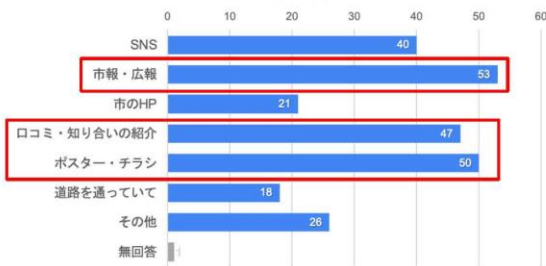
どなたと来ましたか？



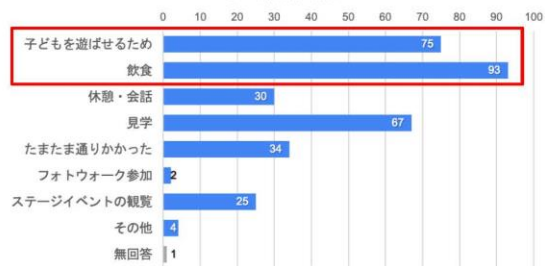
11

水無川沿いの活用に向けた社会実験 来場者アンケート結果

"はだののミライラボ"が開催されることは何で知りましたか？（複数回答）



"はだののミライラボ"来訪・参加の目的を教えてください。（複数回答）



"はだののミライラボ"で良かったもの（水無川の景観や環境を楽しむためのもの）を教えてください。（複数回答）



【頂いた主なご意見】

■社会実験について

- ✓ 楽しかった、出店数をどんどん増やして定期的にやってほしい、高校生軽音部の披露する場があり良かったなど、開催に対して肯定的な意見が多かった。
- ✓ 空間づくりに対しても、芝生空間が良かった、椅子やテーブルでのんびり過ごせた、と評価する意見が多数ある一方、椅子やテーブルがもっとほしい、日陰も必要など、環境の改善に対する要望もいくつか寄せられた。

■秦野のまちづくりについて

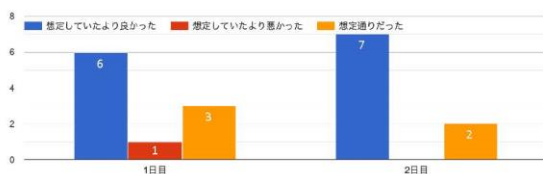
- ✓ 秦野の河川敷はとても素晴らしいところだがもっと有効活用して人が安心して集まれる場所にしてほしい、人の流れを意識したまちづくりが求められている。
- ✓ 駅周辺の課題として、空きテナントの増加や、飲食店等の不足などが挙げられた。
- ✓ 今後もこのようなイベントを継続するなど、まちづくりに対して期待する意見も多く寄せられた。

12

水無川沿いの活用に向けた社会実験 出店者・沿道店舗アンケート結果

出店者アンケート（回答数 10）

売上についてお聞かせください



今回のような取り組みを今後も実施した場合、出店意向をお聞かせください。
10件の回答

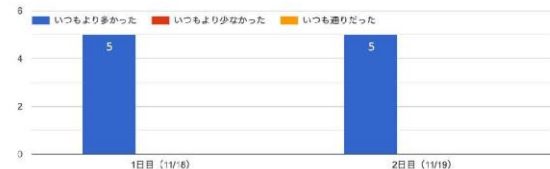


【お客さんからの声や反応で印象的だったもの】

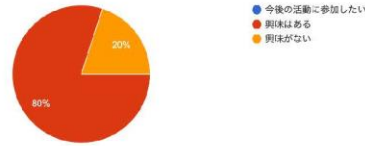
- ✓ イベントに来られたお客様からイベントの告知をもっと色々な場所ですれば良かったんじゃないかというお話を頂きました。他の通りでもできると良いと思う。
- ✓ 普段は片町通りの店舗で営業しているが、今回の出店によって店のことを知っていた人にも知ってもらうことができた。
- ✓ お客さんや周りの人の話では、駅前の水無川沿いの道路を歩行者天国にしたことがよかったという意見が多かった。
- ✓ 実施時間をもう少し長くできるといい、このような企画を年に1～2回出来るといい。

沿道店舗アンケート（回答数 5）

当日の来客数についてお聞かせください



"はだののミライラボ"への興味等について教えてください。
5件の回答



【お客さんからの声や反応で印象的だったもの】

- ✓ 近所の人と良いねって話しました。
- ✓ 近所の人が歩いてくれる場所こういうのがあると良いと言っていた。
- ✓ 川の対岸から見たときに昔のサクラマーケットを少し思い出した。

13

交通量調査 実施概要

■ 調査方法

調査箇所 A～G交差点 （合計7ヶ所）

実施日 実験中：2023年11月18日(土)・19日(日)

通常時：2023年11月25日（土）

時間 11:00～15:00（1時間に1回計測。（5回／1日））

調査項目 ■ 交差点における信号待ちの車両の台数

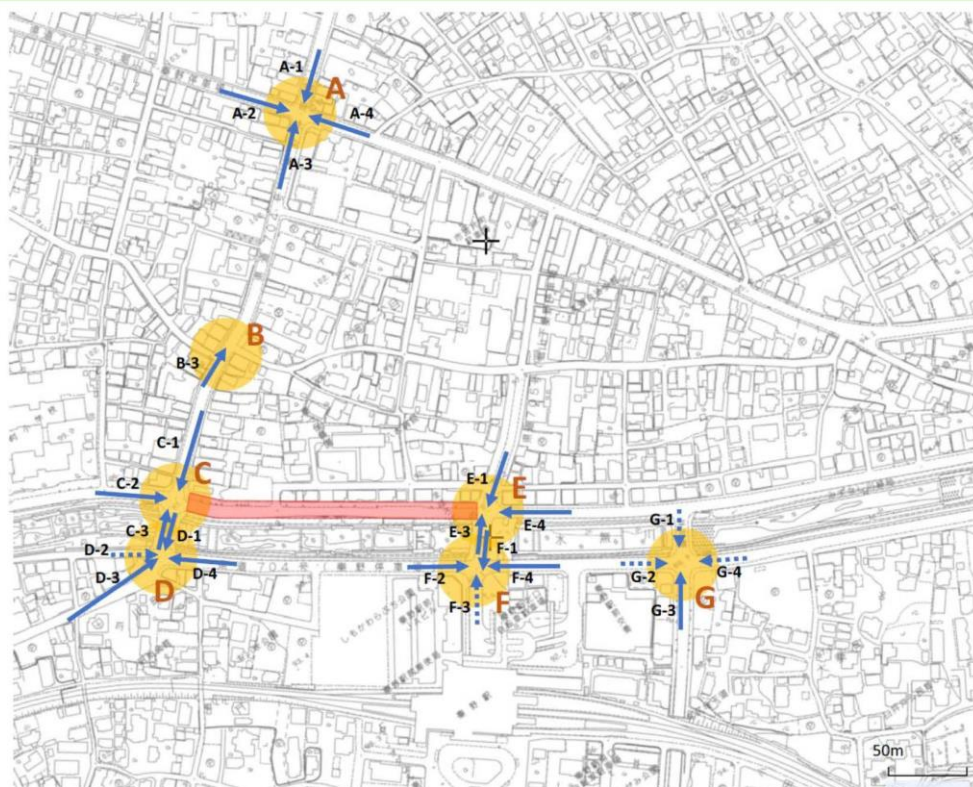
■ 交差点における渋滞の距離

実施方法 ■ 各時間調査員による目視による調査

- ①2人の調査員でA～Gの調査地点を分担し、調査する。
- ②各時:00分になったら、対象の交差点へ向かい1～3,4の方向の車が何台停車しているかを確認する。(赤信号になった時点でカウントする)
- ③台数をカウントする
- ④車両最後尾の位置をマップに記入し、写真を撮影する。
- ⑤担当箇所が終わったら、Googleフォームに入力する。

14

交通量調査 調査地点

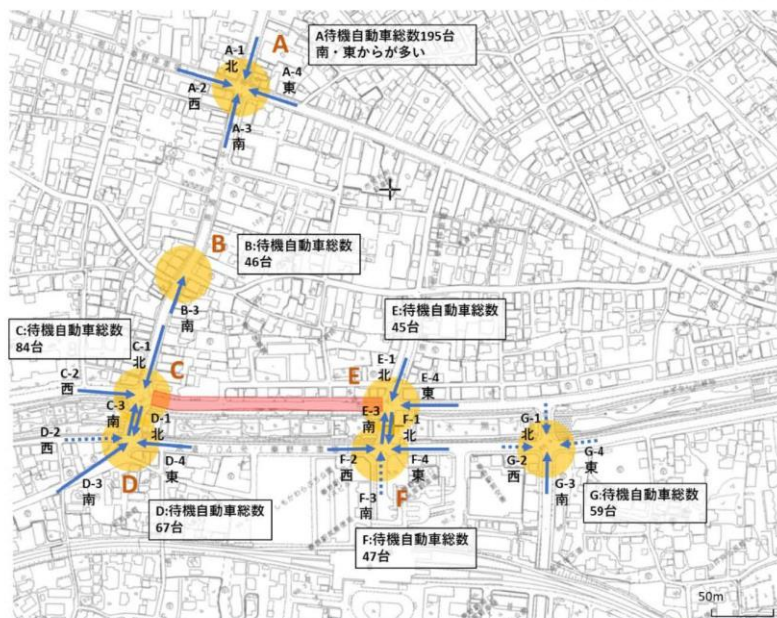


15

交通量調査 通常時（11月25日 土曜日）

- ① 交差点における待機自動車総数は地点A が195 台※と最も多く、南から及び東からの待機自動車数が多い傾向にある。
- ② その他の交差点における待機自動車数は40～80台※程度となっている。

※ 11：00～15：00の集計の合計



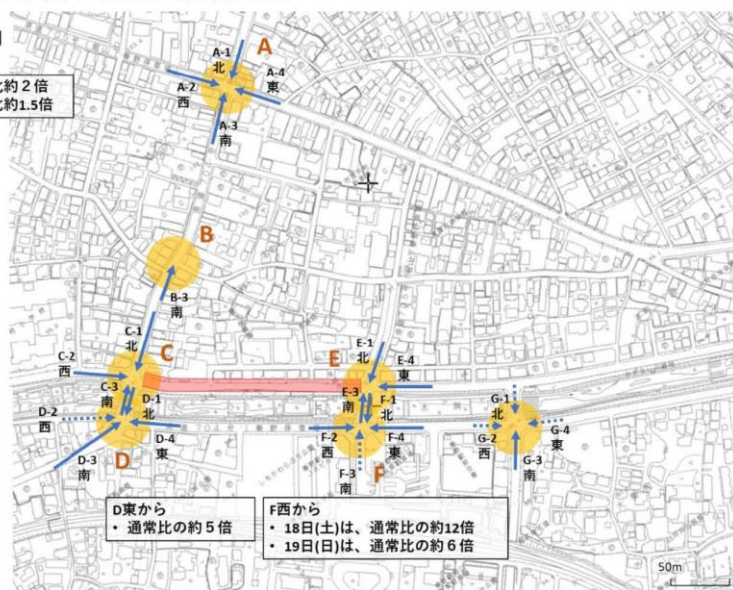
16

交通量調査 社会実験実施中（11月18日・19日）

- ① 調査地点全体を総じて、交通規制時の信号待ちの自動車数は、11/18（土）で通常時比約2倍（195%）、11/19（日）で通常時比約1.5倍（140%）であった。
- ② 中でも調査地点D及びFは交差点流入量が大幅に増加している。
- ③ 特に調査地点Dの東からの待機自動車数は通常時に比して概ね5 倍、地点F の西からの待機自動車数は11/18（土）で平常時の約12 倍（1213%）、11/19（日）では6 倍（600%）と規制時の重要なボトルネックであることが伺える。

全体的な傾向

- 18日(土)：通常比約2倍
- 19日(日)：通常比約1.5倍



17

交通量調査 社会実験 1 日目 (11月18日 土曜日)



18

交通量調査 社会実験 2 日目 (11月19日 日曜日)



19

交通量調査 まとめ

考察

① 今回社会実験実施にあたっての前提・留意点

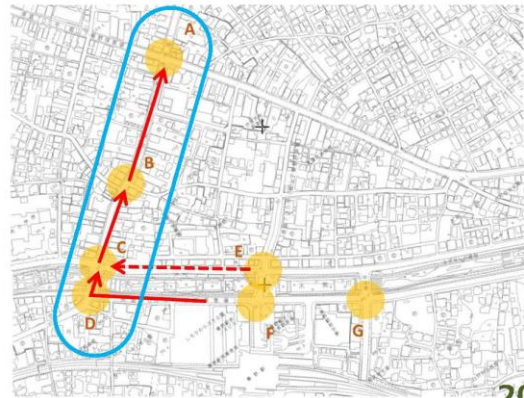
- 今回の社会実験実施日は、JAはだの農業まつりの開催日と同日だったため、**市内中心部の交通量が全体的に増加**していた。

② 交通課題に対するボトルネックの解消

- 土日の日中は、大規模小売店舗利用の自家用車も多いと考えられ、**調査地点A-B-C-D-F間が断続的に渋滞**していた。
- 信号Bと信号Cにおける南方向をスムーズにするには、**信号の時間調整**も有効な手段と考えられるが、交通管理者との十分な協議も必要となる。

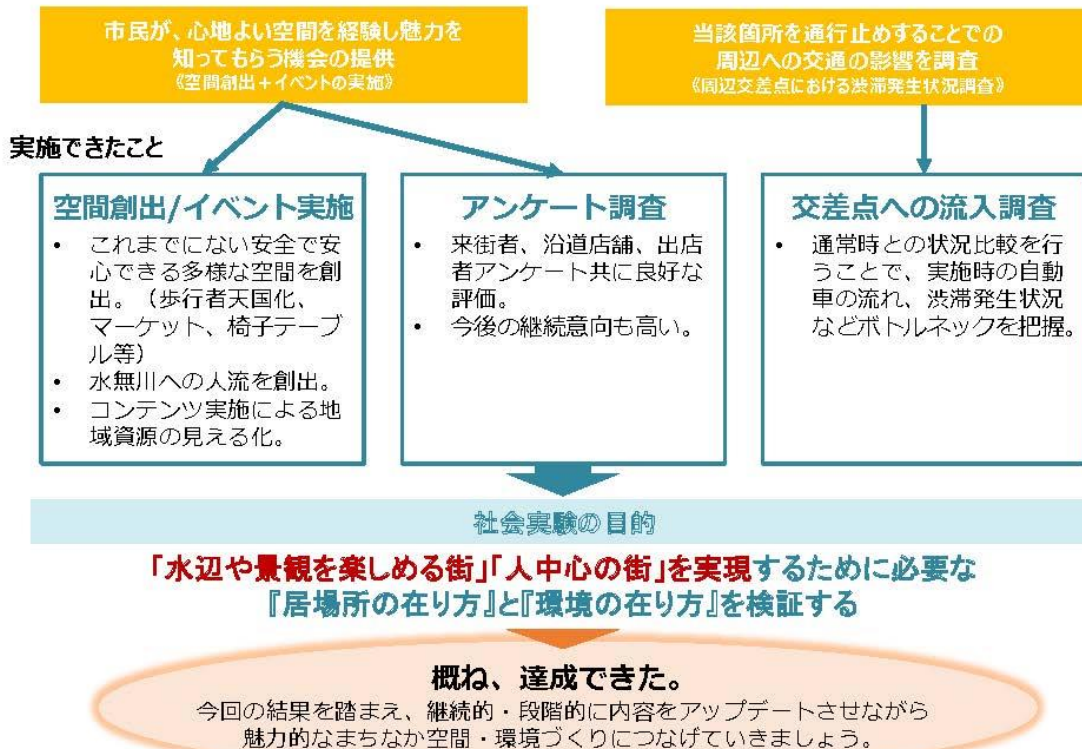
③ 県道705の供用開始（令和8年度予定）との関連

- 県道705が供用開始されることで相互通行が可能となるため、F→D、E→Cの西方面に向かう**交通量の分散が期待**される。



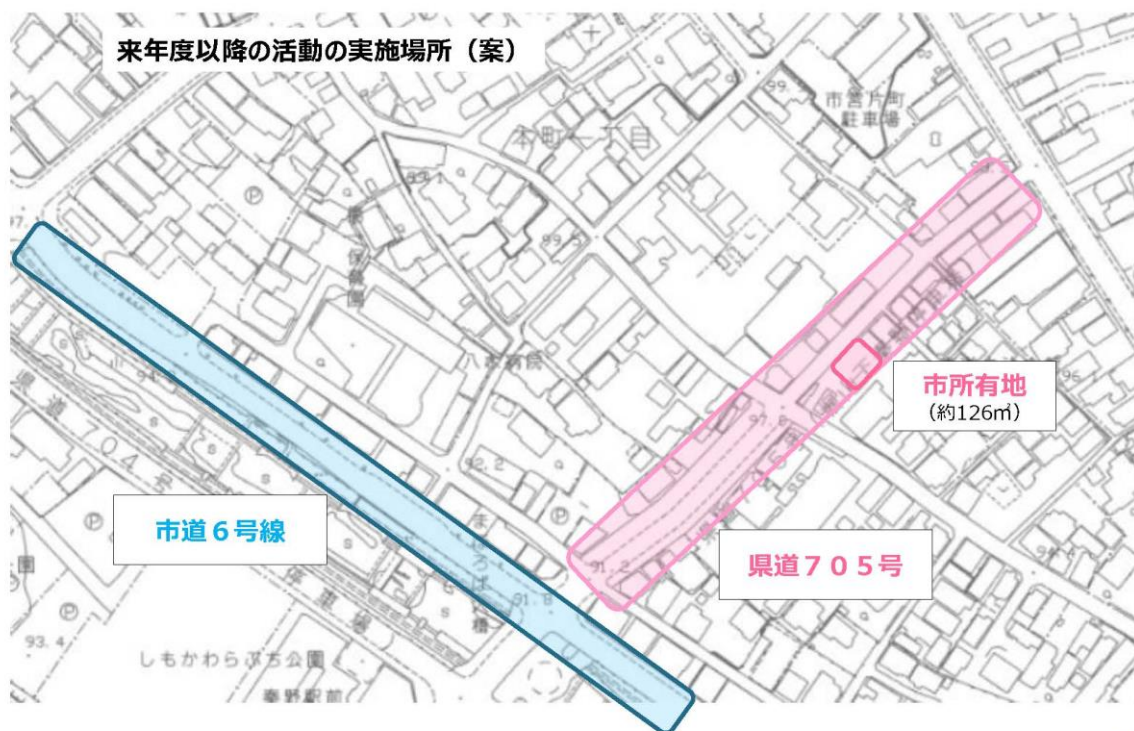
20

水無川沿いの活用に向けた社会実験 全体総評



21

来年度以降の活動について

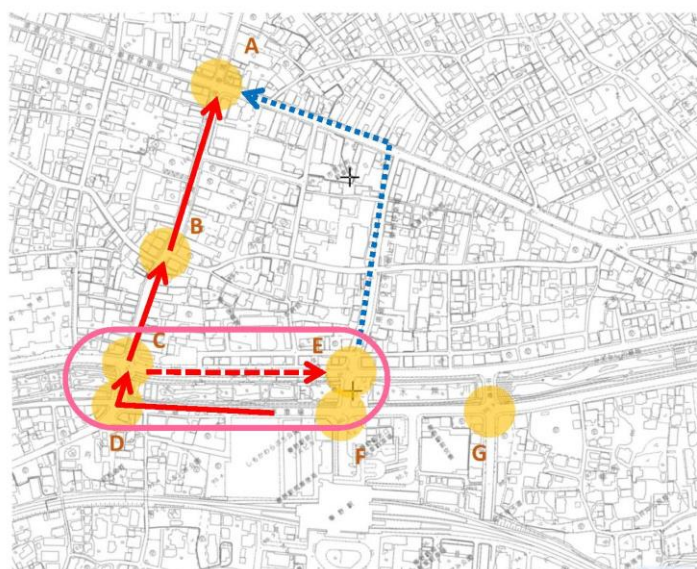


22

来年度以降の活動について

交通渋滞の発生抑制に重点を置く場合の通行規制アイデア

- 県道705が相互通行化されると、FからDCBAを経由する交通渋滞は緩和が想定される。
- C→B→A間における交通渋滞は、AB地点に右折レーンがないことが大きな要因であると考えられる。
- AB地点での右折車両を減らすことで、C→B→A間の交通渋滞の更なる緩和が期待される。
- C→E間の**東方面への通行を可能にすることで**（E→C間の西方向は規制）、**一定の渋滞緩和が期待できる。**
- 恒常的な交通規制等を行う場合、「ひがしみち」など、街区内部の通過交通を抑制する対策を講じることも必要。



23

来年度以降のビジョンの実現に向けた活動に関する意見交換

水無川沿い社会実験の結果を踏まえて、今後、市道 6 号線や県道 705 号（市有地含む）などで、どんなことができれば良いか、どんなことがしたいかを考えよう

